



犬の公衆トイレ「ドロップくん」

説明書

ビーナスラインペットネット

問合せは

ペンシオーネ美し松 八木 裕

TEL 0268-69-2422 FAX 0268-69-2402

Mail petnet@kokuyou.ne.jp

何で他人の犬のフンまで私が始末するの？

ワンちゃんのフンは中型犬で月に 4~6Kg にもなり、トイレに流しても燃えるゴミとして処理しても、エネルギーを消費しますし、そのまま放置すれば、他人や他の動物に迷惑がかかります。

ドロップくんは落ち葉とおが屑・そば殻・もみ殻など産業廃棄物といわれるものを利用してフンの堆肥化をはかるバイオトイレで、燃えるゴミが減らせ CO2 の削減が出来ます。また自然のサイクルで土に返し花壇の土としてリサイクルできる、一石二鳥のエコシステムです。

上田保健所管内には大小合わせて 13751 匹のワンちゃんがいるから、フンの量は月に 40t 以上にもなります。ドロップくんを地域全体で活用すれば相当な省エネになります。

フンやゴミもあちこちに捨てられていれば、結局片付けるのは自分たち住民です。ドロップくんの所に捨てられていれば、拾いに行く手間が省けます。袋の処理をお願いします。

あなたの活動は CO2 削減とフン害防止に大きく貢献し、地域のために必ず役に立ちます。まずあなたから始めてみてください。

あなたがドロップくんの活動に賛同され、活用されることで地域の環境が良くなります。

犬の公衆トイレは社会のニーズ

人間の公衆トイレが完備されていなかった時代、白樺湖周辺でも団体さんの立小便などということが良くありましたが、高速道の SA や道の駅の充実でそのような光景には会わなくなりました。少子化で 15 歳以下のお子さんの数よりもペットの登録数の方が多くなった現在、ペットの公衆トイレの一般化が人間用と同様当たり前となり、ペットのフン害をなくす「時代の流れ」ではないでしょうか。

07 年には長和町から補助金を受けて設置を進めています。

環境やお客様の利便性を考え、積極的に活用されることを願っています。

犬の公衆トイレは 10 年の実績

この犬の公衆トイレのシステムは群馬県みなかみ町の環境課長阿部正さんが 1998 年に公園のフン害をなくすために開発しました。とかく設置に反対の多い住民対策にマスコミを利用して既成事実を築いたこと、最適な利用方法やきれいに使ってもらうためのノウハウ蓄積などだいぶ苦労されたようです。

永年の実績があり、町のフン害をなくしたことで多くの新聞に取り上げられ NHK「ご近所の底力」にも出演されています。(NHK ご近所の底力の HP をご覧ください。)

ビーナスラインペットネットでも運営の仕方に阿部課長のアドバイスを大いに参考にしています。

設置する場所も利用する側の心理を考え、

○周囲の方やお店の方から良く見える広いところ。

○花などで飾り、周辺がきれいなところ など

周囲から見られている事や汚く出来ない状況を作ること大切なことのように、なによりも時代の流れの中で環境を良くしている活動であることをご理解ください。

ドロップくんとは



写真 1

- ◎本体(白い大きい容器)
- ◎ゴミ入れ (ふた付きの小さい容器)
- ◎かき回し棒
- ◎看板 (60cm×45cm)
- ◎説明書

の5つで構成されています。(写真1)

◎本体

交和物産(株)の協力で提供していただいた容器にペイントして再利用しています。

ふたにはねじが切っていますが、削り取り、つまみを付け、片手で開けられるようにしました。

ふたにも「ウンチだけを入れて棒でかき混ぜて下さい」「紙やビニールなどは横の容器に入れて下さい」のお願いが書いてあります。



写真 2

◎ゴミ入れ

紙やビニールのためのゴミ入れを置きます。

雨を考えふた付きのものを置きます。あまり軽い物は風で飛んでしまいます。足で踏んで開けるゴミ入れでもOKですし、みなかみ町では廃品のエンビパイプと木で作ったふたを使用しています。身近にある物を利用してください。

「ゴミはお持ち帰り下さい」でもかまいませんが、本体に入れられる可能性があります。



写真 3

◎かき回し棒・ゴミバサミ

中身をかき回すための棒で竹ぼうきの柄やモップの柄などを再利用しています。あるものを利用してください。

また、あると便利なものとしてゴミバサミは本体の中に紙やビニールが入れられたときに取り出すものです。



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7

◎看板

存在をアピールするものとして大き目の看板設置をお勧めします。

手書きで充分ですが、ペットネットでは利用者の分かりやすさを考え、本体・看板を統一しています。

ここでは 60cm×35cm の看板に足と棒を立てるエンビパイプを取り付けてあります。

看板を壁に張り付け、ドロップくんを設置しているところもあります。

◎説明書

犬の公衆トイレというものになじみがないせいで、ドロップくんを前に「これはなんだ？」という方が多く、あとからこのような説明書をラミネートして掲示するようにしました。

看板と説明書を 1 つにして掲示するのも良いかもしれませんが。新たなエリアで活動される方はご検討ください

本体の作り方

◎ふたの加工

ふたにはねじが切っており、回して使うようになっています。密閉性は良くなりますが、① バクテリアが好気性。

② 片手で開け閉めできる。

の理由からねじをグラインダーで切り落としました。(写真 8)



写真 8

ふたにはつまみを付けます。(写真 9)

ここでは直径 15~20 mm程度の小枝を 30 mm位の長さになり、キシラデコールを塗ったあと、裏から 30 mmのビス止めをしています。

「ウンチだけを入れて棒でかき混ぜてください」「紙やビニールなどは横の容器に入れてください」のお願いが書いてあります。



写真 9

◎本体の塗装

本体は食品業界から出る廃品の容器を利用しています。主に円柱形で直径約 40 cm、高さ約 60 cm 60 Lほどの容量があります。

(写真 10)

元の色はブルーですが、再利用なので傷や汚れもあり、油性の白の塗料を 2 回塗りし、犬の足型や骨の形などをステンシルしてみました。

私たちの地域では利用者に分かりやすいということでほぼ統一しています。

ご自分だけで利用する場合や地域で統一する場合は好きな模様をペイントして下さい。



写真 10

容器は木製は腐りやすく、スチール製は錆びやすく重いので、プラスチック製が良いようです。

この容器は今のところ 10 年使用しても変化がありません。



写真 11



写真 12



写真 13



写真 14

管理の仕方

容器の底に 15cm ほど良く肥えた黒土や畑の土を入れ、その上に 2/3 位まで落ち葉を入れます。

おが屑を同量くらい・ぬかを少々入れ、落ち葉とおが屑・ぬかをかき回します。おが屑・ぬかは落ち葉の間に入り、見た目の量は容器の 1/2~2/3 になります。このときの重さは 10Kg でした。(写真 11)

フンを入れたら落ち葉の中に隠れるように棒でかき回します。落ち葉を砕くように、空気の中に入れるように、かき回してみてください。

おが屑は全体の水分調整とフンのベタベタを取る役目をします。ぬかは初めのバクテリアのエサです。

使用していくと落ち葉はだんだん細かくなり、全体のかさはフンが入ってきているのに 1/2 以下になります。

フンが見えるようになってきました。この時の重さは 20Kg でした。(写真 12)

ふたを開けてフンが見えるようになったり、臭いが気になるようになったり、コバエが飛ぶようになったら、落ち葉を足します。

落ち葉で覆われていると、ハエは飛びません。

フンのベタベタが気になったらおが屑を足すとベタベタがなくなります。(写真 13)

水分が多いからとふたを開けて乾かすと、ハエが集まり逆効果になります。

落ち葉はたっぷり入れ容器の 8 分目くらいまで入れます。(写真 14)

夏は場所によっては乾燥してカラカラに、冬は雪の降るところでは水分過多や凍結になりやすいです。

お酢を入れて水分を増やしたり、おが屑を入れて水分を吸わせたり、落ち葉をたっぷり入れて凍結を防ぐことができます。



写真 15

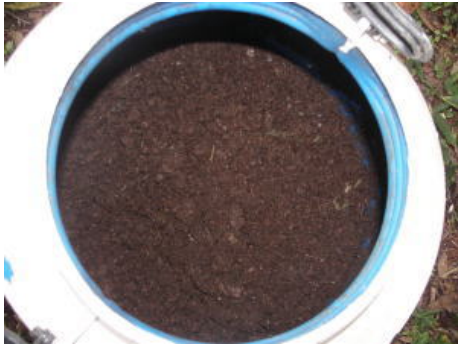


写真 16

さらに使っていると、落ち葉はまた細かくなります。再度、落ち葉・おが屑を足します。

そして中身がほぼいっぱいになったら新しい容器と交換します。この時 34Kg でした。(写真 15) ここまでなるのに 3 ヶ月位かかるようにしてください。フンの量が多く 1 ヶ月ほどでいっぱいになると分解が追いつかず、下のほうのフンがなかなか堆肥化しません。

入れるフンが多い方は初めに多めに土を入れた方が分解が早まり、落ち葉やおが屑はこまめに追加した方が進み常にハエなどが飛ばない良い状態を保てます。

落ち葉やおが屑を足すのが面倒な方は、たっぷり 2 回の追加でいっぱいまで使えます。

いっぱいになったものは週に 1~2 回、バクテリアには空気が必要なのでかき回しながら 1~2 ヶ月分解を促進します。2 ヶ月経つとフンもだいぶ細かくなります。

(写真 16)

フンの発酵を早める方法として、焼酎に漬けたアケビ酒やニンジンジュサーを絞った搾りかすを加える方法があります。また水分を加える方法として夏の暑い時期はお酢を加えると発酵しやすくなります。

ドロップくんは 100 頭分位のフンが入ります。毎日 2~3 頭のフンを入れていると 1 ヶ月半くらいでいっぱいになります。それですとフンの分解が間に合いません。容器を 2 つ用意し、3 ヶ月位かかっていっぱいになるように調整してください。使用していきっぱいになったら、新たな容器に交換しますが、フンは 2 ヶ月くらいで堆肥化します(場所によっては冬季はもっと時間がかかります)ので、その間そのままにして容器の数はその間に必要な数そろえてください。

散歩道などに設置した場合、意外とフンの量は少なく、春から秋までいっぱいにならず交換なしすんでいるところも多いです。

また、いっぱいまで使うと 30 kg 以上と重くなり、女性が運ぶのがちょっと大変になります。容器がいっぱいにならないうちに次の容器に交換したり、堆肥化していない状態でも中身を出せる場所がある方は、庭などに穴を掘り、中身を空け、土や落ち葉をかけて堆肥化しても OK です。ただ、ドロップくんの中で堆肥化させたほうがきれいな堆肥になります。

使う中で自分流の管理しやすい方法で使いこなしてください。

写真 16 くらいになると、堆肥として花壇の土や腐葉土に漉きこんで花壇やプランターなどに利用できます。花が良く育ちます。

落ち葉は秋にホームセンターなどで売っている整理袋などに貯めておきます。ドロップくん1ヵ所に付き2~3袋あれば1年間十分に持ちます。

おが屑は家具工房や製材所などで分けてもらえます。手に入らないと言う方はご相談ください。

堆肥としてはおが屑よりそば殻を使用したものの方が良いという話もありますので、おが屑・そば殻・籾殻など何を利用するかは、目的や手に入りやすいものなど各自でご検討ください。

いずれにせよ

たっぷりの落ち葉・おが屑

こまめなかき回し

適度な水分

がポイントです。

管理して行く中で紙やビニールが入れられたり、ゴミ入れに他のゴミが入れられる場合もあるかと思えます。

マナーが悪いという言葉をよく聞きますが、利用者にとどのように使ってもらいたいかがちやんと伝えられていないことによる「利用者側の良かれの判断」と「こちら側の希望」のずれが「利用者のマナーが悪い」という言葉になっている場合がかなりあります。

責任の半分はこちら側にもあります。利用者にとどのように使ってもらいたいかをはっきり伝える姿勢があれば、利用者はそのように使い、問題の多くは解決します。

「こちら側の希望」をどう伝え、どのように使っていただくか、さらに皆さんと考え、より良い環境作りが出来ればと思っています。

こんな風にしたら良かったなど新たな発見がありましたら、ぜひお聞かせください。